

# 10 地方銀行による地域ブランド農産物の開発

## 国産アボカドのブランド化、さらにその先へ

宮崎県 | 宮崎銀行

地方銀行が自ら農業ビジネスに参画し、新たな地域ブランド農産物の開発に取り組むチャレンジが始まっている。今後、地方銀行が設立した地域商社と連携してブランディングに取り組むことで、地域ブランド農産物としての地位を確立し、地域を盛り上げていく。



宮崎の県木「フェニックス」(Microsoft Bing)

### 宮崎県の概要

- 【人口】1,061,032人（2021年3月31日現在）
- ・宮崎県は、年間の平均気温が約17度で、一年を通じて温暖な気候である。県木「フェニックス」が多く植えられており、南国情緒豊かな雰囲気が感じられる。
- ・また、平均気温、日照時間、快晴日数が全国トップクラスであることから、「日本のひなた宮崎県」としてPRしている。
- ・こうした温暖な気候を利用した農業が盛んで、農産物産出額（2019年）は6年連続で全国第5位となっており、キュウリ、ピーマン、椎茸、マンゴーといった野菜や果物などが多く栽培されている。

### 銀行自らが農業を実践

宮崎県の農業は、産出額が全国第5位を誇る県の基幹産業であるが、農業従事者の高齢化が進む中、魅力ある農業のビジネスモデルを描けなければ、担い手の減少によって農業の衰退を招きかねず、その結果、地域経済の活力が低下することが危惧されている。

こうした状況を踏まえ、宮崎銀行は、「取引先農家に対して、金融面の支援以外に何か取組みができないか」との思いから熟考を重ねた結果、銀行自らが農業に参入、新たな地域ブランド農産物の開発に取り組むとともに、新しい農業のビジネスモデルの構築を目指すこととした。

具体的には、宮崎銀行と関連会社の宮銀ベンチャーキャピタル(株)の共同出資により、農業法人「株式会社 夢違いファーム」を設立。宮崎銀行の行員2名が出向して農業に取り組んでいる。

### アボカドを栽培品目として選定

同社が最初に手掛ける農産物について、宮崎銀行の担当者は、「地域の農家と同じ品目を作っても競合してしまうので、新規性の高い品目を栽培しようと思って、色々検討を重ねました。その結果、①熱帯・亜熱帯地域で生育するアボカドが宮崎県の温暖な気候にもマッチしている考えられること、②国内で流通しているアボカドの約99%がメキシコ産等の輸入品であるため地元農家と競合しない

こと、③若い女性等を中心にアボカドの需要が高まっていることから、地域のブランド品目として成長する余地があるのではないかと思い、国産アボカドの栽培に取り組むこととしました」と語る。

夢違いファームが国内ではほとんど例のないアボカド栽培を始めるに当たり、農地の確保や栽培技術の習得が課題となった。

「農地については、アボカドを地域ブランド品目として育てていくことを説明・意気投合し、取引先農家の遊休地を活用させてもらうことになりました。また、これまで銀行業務しか携わったことがなく、農業のノウハウがありませんでした。そこで銀行取引先のアボカドを栽培しているマンゴー農家にお願ひし、栽培方法を教えてもらえることになりました」（宮崎銀行）



アボカドの苗を定植(夢違いファームホームページ)

### 国産アボカドとしてブランド化を目指す

2017年11月、夢違いファームは10aのビニールハウスにアボカドの苗を定植。ハウス内には監視用カメラを設置するなどスマート農業設備を導入し、効率的な農作業に取り組んだ。その結果、定植から2年でアボカドの初収穫に成功。

「初収穫したアボカドを宮崎県や宮崎市に贈呈したところ、『濃厚な味でうまみが抜群だ』と評価され、今後の栽培の励みになりました。また、サイズの大きいアボカドが栽培できているので、これを国産高級アボカドとして、京都の高級日本料理店に納入しています」（宮崎銀行）



夢違いファームで初収穫されたアボカド(夢違いファームホームページ)

「規格外サイズ等のアボカドについては、地元の飲食店と連携して、ハンバーガーの具材として活用してもらうなど、6次産業化への取組みも開始しています」（宮崎銀行）としており、新しい農業ビジネスのあり方を模索している様子が窺える。



宮崎県産アボカドを使ったハンバーガー(宮崎銀行提供資料)

### 更なる地域ブランド農産物の開発へ

夢違いファームは、アボカド以外にも更なる地域ブランド農産物の開発に向け、宮崎県の総合農業試験場と連携協定を締結。県から定期的にモニタリングや指導を受けながら、レモン、キウイなどの栽培も開始している。

「レモンについては、宮崎原産の日向夏とレモンを掛け合わせた新品種の『璃の香』を栽培しています。璃の香は、従来のレモンに比べて果実が大きく、まろやかな酸味と豊富な果肉・果汁が特長です。こうした新しい農産物の栽培にチャレンジし、宮崎県の新たな地域ブランド農産物としての地位確立を目指しています」（宮崎銀行）。



レモンの新品種(璃の香)の花(農研機構ホームページ)

### 地域商社による支援

宮崎銀行は、2021年1月に地域商社「(株)Withみやざき」を設立している。担当者は「今後、地域商社が夢違いファームで収穫した農産物を販売したり、取引先と連携して、加工品の開発やブランディングなどを行っていく予定です」と語る。

銀行が農業に参入し、新たな地域ブランド農産物の開発に挑戦していくことにより、地域を盛り上げていく。そしてそれが将来的に、食品、観光等の関連産業の活力向上にもつながっていく、そんな未来に期待感が膨らんでいる。



レモンの新品種(璃の香)(農研機構ホームページ)